

稽古談を読んで

多摩大学 経営情報学部 事業構想学科

池末 英寿 21911031

1. 背景

高橋恭寛ゼミの取り組みとして、海保青陵の書物を読むことで経営思想についての理解度を深めた。

2. 海保青陵 (1755～1817)

江戸時代後期の儒学者・経世家。経済上の様々な相談や指導を行い、家計や経営の立て直しに手腕を振るったことから、現代の経営コンサルの先駆けと言われている。

3. 稽古談

稽古談とは、物は買うのに売ることがはしないといった武士の愚行により、金が世に回らなくなることから国中が貧しくなるというところから始まる。

そこで、丹波の国の園部という地域の才人の武士と百姓がこのところをよく考え、経済を段々によくするという内容である。

参考文献

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/海保青陵>